

今日の説教のポイント <創世記2章1-3節>

①神様の世界の創造の仕事は六日間で完成したのではなかったのか？ しかし聖書は七日目に完成したと告げる。その意味は？

神様が七日目になされたことは仕事を止め、休息されたことです。私たちは、「休息することは仕事ではない。むしろ仕事するために休息するのだ。仕事が目的であり、休息はそのためのもの」、と考えがちです。しかし聖書はそうは考えていません。神様は、休まれた七日目も含めて初めて「完成」とされたからです。私たちは仕事をし出すと切りがありません。そのうちに疲れ、何のために仕事しているのか分からなくなります。休息することは怠惰でも労働を軽視することでもありません。むしろ、ただ追い立てられる中で仕事を続けて労働の尊厳を見失っているような状態から、「神様も六日間働かれた。その労働に参加するのだ！」という、労働への誇りを回復するために必要な行為、それが休息です。

神様の休息に倣って私たちも休息をとり、礼拝に与り、造り主なる神様の御言葉を聞く中で、「自分を支えているのは自分ではない、神様なのだ」ということが分かって来て、大きな平安の中に置かれるのです。

②第七日目を神様が「祝福し、聖別された」とはどういう意味なのか？

重要な聖書用語「聖別する」が聖書で初めて出て来、七日目に対して使われています。また、「祝福する」が動物(22節)と人間(28節)に続いて、七日目に対して使われています。「物」や「場所」ではない「日」を聖別したり祝福したりするとは、どういう意味でしょうか？

第七日目を聖別されたとは、時間を聖別されたということです。創造の仕事を終えられた次の日を神様は聖なる日、御自身に属する特別な日とされたというのです。私たちは主の日の礼拝に身を置く時、神様の御手の中にある平安を覚えます。それは正しいのです。人は物や空間を支配できても、時間を支配できません。それも正しいのです。私たちがどんなにこの世の空間で問題を抱えていても、どんな勢力に一時支配されていても、神様が聖別され、支配され、祝福されたこの安息日という時間の中に身を置き、その御言葉に聞く時に、また立ち向かって進む勇気が与えられます。それは、「神様が聖別されたこの時間」の中で、真の支配者が誰であるかを知らされるからです。本当に祝福された日です！